第5回企画展

健康長寿を支える身体（からだ）の医学

― 立つ・歩く ―

Sprain
Hernia
Locomotive Syndrome
Rheumatoid Arthritis
Osteoporosis
Fracture

2013年
3月19日（火）▶8月11日（日）
10:00～17:00（最終入館 16:45）

休館日　毎週月曜日（ただし、月曜が祝日の場合は開館）

常設展

近代から現代への医学の歩み
――医学部と附属病院の150年

東京大学医学部・医学部附属病院　**健康と医学の博物館**　入場無料

住所　〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学本郷キャンパス内 医学部総合中央館（医学図書館）地下 1 階

問合せ先　「健康と医学の博物館」事務室
03-5841-0813

Eメール　mhm@m.u-tokyo.ac.jp
http://mhm.m.u-tokyo.ac.jp/

健康と医学の博物館
Museum of Health and Medicine

第5回企画展 健康長寿を支える身体の医学 ― 立つ・歩く ―

形を整える外科と書いて、整形外科といいます。この語は、20世紀初頭に東京大学の初代の整形外科教授であった田代義徳が作りました。骨折などの外傷の治療による身体の機能回復、矯正に対する需要が高かった当時の疾病事情が反映されています。整形外科という語ができてから少し後の1921年の平均寿命は男性42.1歳、女性43.2歳でした。2011年には男性79.4歳、女性85.9歳にまで伸長していますから、今生まれた子は一世紀前の子の倍程の期間を立ち、歩いて過ごすことになります。

現在では腰痛、骨粗鬆症、リウマチ、変形性関節症など、加齢に伴って増える症状に対する診療の比重が高まっています。本企画展「健康長寿を支える身体の医学 ―立つ・歩く―」では、長い一生を生きる現代人が直面する運動器の障害を中心にして、最近の予防、治療、研究などを紹介します。

Zone 1
筋肉、骨、関節

Zone 2
「立つ・歩く」の病気

Zone 3
「立つ・歩く」の医療

Zone 4
「立つ・歩く」を支える研究

常設展 近代から現代への医学の歩み ―医学部と附属病院の150年

150余年にわたる医学部・医学部附属病院の業績・歴史の中で、特筆されるものを中心に紹介します。初期の時代にドイツ人教師によってもたらされた医学書、医療器具を展示し、人工癌などの世界的な業績を紹介します。

研究室紹介では、がん細胞の広がりを調べる蛍光プローブの開発・研究を進める「生体情報学教室」を取り上げます。

東京大学医学部総合中央館（医学図書館）B1F
健康と医学の博物館

本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）…… 徒歩８分
本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）…… 徒歩６分
湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線）…… 徒歩８分
東大前駅（地下鉄南北線）…… 徒歩10分